



中部大学ESDエコマネーチーム2014

報告書

目次

1. メンバー一覧	3
2. サステナビリティ方針	4-5
Chubu University ESD Eco Money Team 2014 Sustainability Policy	
3. チャレンジサイト	6-10
4. 主な活動	
①全国環境ISO学生大会	11
②ESDユネスコ世界会議併催イベント	12
③UNESCO ESD EXCURSION	13
④ユネスコ半年前イベント	14
⑤愛知県学長懇話会	15
⑥画像電子学会発表	16
⑦日本規格協会実演	17
⑧環境デーなごや	18
⑨エコプロダクツ2014	19
⑩恵那研修	20
⑪中部大学フェア	21
5. 各部の成果	
①委員長	22
②2年委員長	23
③委員長補佐	24
④副委員長	25
⑤2年副委員長	26
⑥1年副委員長	27
⑦標準化教育部	28-29
⑧地域部	30
⑨広報部	31
⑩IT部	32
⑪国際部	33
⑫監査部	34
⑬デザイン部	35
6. 内部監査	36
7. 目的目標達成状況	37-41

1. メンバー一覧

中部大学ESDエコマネーチーム2014

						
植手智哉 委員長	大橋亮祐 副委員長	市川萌虹 標準化・地域部長	太田僚介 広報部長	牧野喜之 委員長補佐	池田敬介 2年 委員長	清水佳菜 2年副委員長
						
仲尾裕太 1年 委員長	井上恭助 1年副委員長	田中萌子 国際部長	元永拓巳 地域・IT部長	加藤初美 デザイン部長	森下裕斗 書記部長	各務玄太郎 監査部長
						
保浦徹 標準化教育部	田中駿吾 地域部	笹井理央 地域部	荒木佑希也 地域・スポーツ	樺山貴斗 国際部	高本涼 書記部	岩田良樹 IT部
						
王哲 国際部	エンカイイ 国際部	野口奨吾 地域・スポーツ	藤澤駿 地域・スポーツ	渡邊祐弥 地域部	増田高英 地域・スポーツ	大西一平 地域部
						
小寺 章史 ☆4年委員長	小寺 和希 ☆4年副委員長	澤田あずさ ☆地域	落合 紳悟 ☆書記	後藤 紫穂 ☆デザイン	小川 大紀 ☆監査	
						
寺井 勝也 ☆書記	清水 象平 ☆デザイン	横川 知己世 ☆監査	谷口 幸大 ☆広報 情報	伊藤 百合香 ☆国際	山口 菜々望 ☆監査	

2. チーム概要

中部大学ESDエコマネーチーム2014 サステナビリティ方針

中部大学ESDエコマネーチームは、みなまたの教訓の継承や環境・社会・経済のサステナビリティ(持続可能性)の重要性を認識しながら、環境研究をすすめるとともに、学生主体の活動を通じて環境・社会・経済に関する物事をみる力を養い、率先的な活動を行います。これらの研究や活動を通じて、「持続可能な社会を担う人材の育成」、特に次の世代へ理解、交流を深めていくことで、学生時代に培った力を社会に役立たせ、よりよい社会の実現を目指し、特に以下の事柄に取り組みます。

1. 学生主体のESD活動の実践を通じた以下の内容を推進します。
 - ・産学官民連携、みなまた環境大学等を通じたESD(持続可能な開発のための教育)。
 - ・持続可能な発展に寄与する地域における自主的な環境活動の支援。
 - ・環境マネジメント分野の標準化教育を推進し、標準を使う人から作る人の標準化人材育成への寄与。
2. 社会的責任に関する標準化教材を開発し、チームの人材育成および利害関係者の意識向上に用います。
3. 中部大学ESDエコマネーチームはこのサステナビリティ方針に基づき、3つの統合マネジメントシステムを運用します。目的、目標を設定し、その実現に向けて行動するとともに、行動の状況を監査して見直しを繰り返します。これにより継続的にシステムとパフォーマンスを改善し、次の世代へとつなげていきます。
 - ・すべての研究・活動の進捗状況を管理するために環境マネジメントシステムを運用します。
 - ・イベントにおいてサステナビリティを配慮するため、持続可能なイベントマネジメントシステムを運用します。
 - ・緊急事態等のリスクに対応するために事業継続マネジメントシステムを運用します。
4. 持続可能な発展とチーム活動の関連性を考慮するとともに、チームの活動に関連する法的・その他の要求事項をチーム全員が理解し、遵守します。
5. 継続的改善を実施するためにコミットメントを行い、文書化し、実行、またそれを維持します。そしてその内容をチームのメンバーやステークホルダー及び外部の人間が把握できるようにします。このサステナビリティ方針は文書化し、チームに所属する学生、イベントの共催者及び、参加者等の関係者に周知するとともにインターネットのホームページを用いて一般に開示します。

2014年4月25日

中部大学ESDエコマネーチーム

代表 植手智哉

中部大学ESDエコマネーチーム

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200
中部大学経営情報学部 伊藤佳世研究室内

電話 0568-51-9968
電子メール: chubu_esd_team@yahoo.co.jp

Chubu University ESD Eco Money Team 2014 Sustainability Policy

The Chubu University Eco Money Team promotes environmental research and student oriented activities while recognizing the importance of “The Lesson of Minamata” and “Sustainability (environmental/society/economy)”. Through research activity, acquire the knowledge, skills, attitudes and values necessary to shape a sustainable society. Promote the understanding of future generations for a better society by utilizing this knowledge.

1. Promote student oriented ESD activities with the following steps:

- Industry, academia and government-people cooperation, ESD (Education for sustainable development) following example such as Minamata Environmental University.
- Support of independent environmental activity in the area, which will contribute to sustainable development.
- Promote the standardization education environmental management (use and create standardization).

2. Develop standardization education material about social responsibility and use it to personal training of the team members and to improve of awareness for stakeholders.

3. Based on this sustainability policy, the Chubu University ESD Eco Money Team will utilize the three Unification Management System. We will act towards the realization of our goals. And check and review our progress and strive to continual improvement of the system and its performance.

- Utilize the environmental management system to manage the progress circumstance all of researches and activities.
- Utilize the sustainable management system to consider the sustainability while event.
- Utilize the Business Continuity Management System to prevent emergency risk.

4. Consider relationship team activity and understanding and fulfill the law and other requirement.

5. Commitment to carry out the improvement of the business, documented, act and mention it.

And inform team members, stakeholders and outside person that the details of it. This sustainability policy will be documented and open for all team members and relevant interested parties, and will be announced on the homepage.

April, 25, 2014

Tomoya Uete Chairman of Chubu University ESD Eco Money Team 2014

Chubu University ESD Eco Money Team: 1200 Matsumoto, Kasugai city, Aichi,
Kayo Ito Lab, College of Business Administration Science, Chubu University
TEL:+81-568-51-9968 Email:Chubu_esd_team@yahoo.co.jp

3. チャレンジサイト

プロジェクトテーマ 学生主体による社会的責任 分野の標準化教育

学生リーダー 植手智哉

プロジェクト指導者 伊藤佳世

1年～4年生の伊藤ゼミ学生が主体となって、ISO26000（社会的責任）の標準化教材「せきにん！～Take Responsibility～」を子供から大人、産業界の方が理解できるように開発した。まずは自分たちが標準を使う→作る→教えるという反復練習を実施し、メンバーの標準化に対する力量を向上させるとともに、それを標準化教材として形にした。様々な地域イベントでの展示や実演を踏まえ、改訂したものを、標準化のプロフェッショナルである日本規格協会の方々にも体験していただき、ご意見・ご感想・訂正点をいただいた。その後改訂した教材を最終版として12月に東京ビッグサイトで開催された“エコプロダクツ2014”に展示・実演を行った。

社会的責任って？

社会的責任は国際標準規格のISO26000としてあり、自らの活動により影響を受ける人々からの信頼性を高め、「社会的に持続可能になろう」「社会により多くの貢献をしよう」という活動に責任をもつことが目的である。



3. チャレンジサイト

1 第8回全国環境ISO学生大会の開催

昨年度に引き続き、2014年8月には、環境に携わる全国の学生を対象に、「第8回全国環境ISO学生大会（主催：中部大学）」を開催した。本大会は、約120名の“環境系学生”が全国から集まり、これまで各々が実践してきた環境活動を踏まえ、新たな活動の可能性を模索する、類を見ないイベントであった。異なる思想・意見をもった歳の近い多くの学生と環境について情報共有する大会になった。普段の自分たちと違う環境で学習している人との話は大変興味深く、以降の活動に取り入れることができた。それだけでなく、各々の今後の課題も見つけ、さらに持続可能な未来に近づいた実感ももてた。

2 統合マネジメントシステム運用

ISO14001：環境マネジメントシステム

組織（企業・自治体など）が環境に負荷をかけないように事業活動を継続的に行うように求められた国際標準規格。

ISO22301：事業継続マネジメントシステム

災害や金融危機などが発生した場合に、組織（企業・自治体など）がいち早く事業を再開・継続させることができるように対策を立案し、効果的に対応できるように求めた国際標準規格。

3 活動の成果

種類	日時	名称	場所	参加者	発表 実演
学術	7月5日	愛知学長懇話会	名古屋市立大学	学生	20人
	10月27日	経済産業省&日本規格協会共同プロジェクト	日本規格協会	標準化専門家	200人
	3月14日	国連会議			5人
イベント	6月7日	あいちESDフェスタ	オアシス21	学生、一般	100人
	9月13日	環境デーなごや2014	久屋大通公園	学生、一般	200人
	11月8日～9日	あいち・なごやESD交流フェスタ	久屋大通公園	学生、一般	200人
	12月11日～13日	エコプロダクツ2014	東京ビックサイト	学生、一般、 社会人	400人
	2月7日	あいちキックオフイベント	愛知芸術会館	学生、一般	100人
本学		第5回中部大学ESD研究・活動発表会	中部大学	学生、教授	
	8月26日～27日	全国環境ISO学生大会	中部大学	学生	120人
	9月18日	中部大学フェア	中部大学	一般、学生	30人

こどもからお年寄り、産業界までと幅広い方を対象とした社会的責任の標準化強化教材の開発を行った。ボードゲーム形式で、超簡易版、簡易版、完全版の3種類を作成し、目的に合わせて難易度を選ぶことができるようにした。超簡易版は中核主題の7つにボードを分け、プレイヤーが自分でボードを選べるようにした。

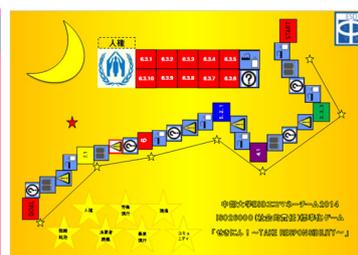
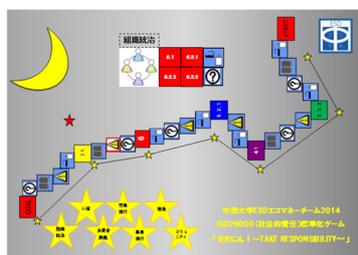
完全版 6人で6～7時間程度



簡易版 4人で2～3時間程度



超簡易版 3人で20～30分程度 プレイヤーがボードを選択できる



要求事項カード

7.1 組織全体に社会的責任を統合するための手引き（一般）

新しい取り組みを自らの意思決定及び活動に取り入れる方法、並びにコミュニケーション及び内部確認のための効果的なシステムを、既に確立している組織もあるかもしれない。また、システムの構築が遅れている組織もあるかもしれない。あらゆる組織が社会的責任をその運営に統合することを手助けすることを目的としている。

7.1 組織全体に社会的責任を統合するための手引き（一般）

Q 社会的責任を組織全体へ統合する手法とは何か、理由と共に述べよ。

1. 組織の社会的責任を理解
2. 意思決定を効果的に反映させるシステムの構築
3. 社会的責任に関する自主的な行動の評価
4. その他

ブックカード

事業継続マネジメントシステム（要求事項）

〈内容〉組織が効果的な事業継続マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、改善するための要求事項について標準化。

〈委員会〉ISO/TC 223（社会セキュリティ）

〈規格〉JISQ22301 ISO22301

事業継続マネジメントシステム（要求事項）

JISQ22301 ISO22301

有事の際の事業継続に関する組織の活動・製品・サービスの方針を定め、実施・確認・見直しすることでシステムとパフォーマンスを継続的に改善するための仕組み。

イベントカード

ボランティア

社内でボランティア活動を企画し開催した。

コミュニティポイントが1増加

ハプニングカード

資源の活用

ゴミや産業廃棄物の適切な分別を怠った。

環境が3ポイント減少

投資カード

労働慣行

労働者の福利厚生を充実させるための投資を行いますか？

ルール版

せきんに！
～THE RESPONSIBILITY～
簡易版ルール説明

経営者として事業をしながら社会的責任を果たしていくゲームです。

- ・最初自分の業種を選択します。
- ・最初の所持金は10万円、パラメーター1から始めます。
- ※パラメーターとは、社会的責任をどの程度果たしているかを示した数値です。
- ・パラメーターは最初、所持金から10万円を1ポイントずつ増減させることができます。
- ・引いたカードは声に出して読みます。
- ・最初誰にゴールした人が勝つです。
- ・勝敗は所持金も関係ありません。
- ・ゴール後、パラメーターは1ポイント10万円が増えます。しかし、マイナスの値域にあるパラメーターは1ポイントにつき10万円が罰金になります。
- ・みんなで仲良くプレイしよう!!!

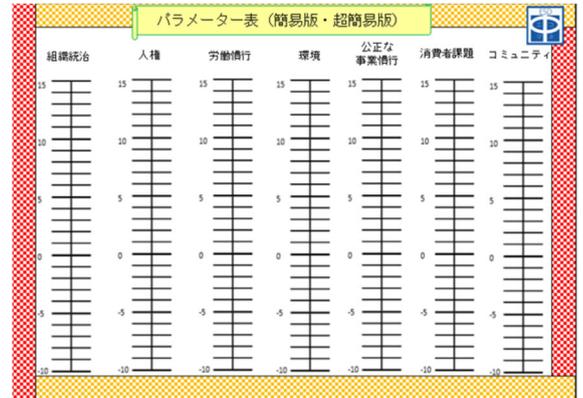
第1次産業

第2次産業

第3次産業

図柄	マス名	効果										
3.1	ISO26000 要求事項マス	通過した時に要求事項を学習して、クイズに答えてもらいます。 1マスにつき、50万円もらえます。										
📁	投資マス	投資する機会を得ます。投資額（ポイント10万円）を払うことで、パラメーターを増加させることができます。投資しないという選択も可能です。1回の投資に上限はありません。										
❓	イベントマス	社会的責任に関するカードです。パラメーターが増加します。										
⚠️	ハプニングマス	事業や社会的責任に対するリスクが発生するカードです。パラメーターが減少します。										
⚠️	大ハプニングマス	事業や社会的責任に対して重大なリスクが発生します。サイコロを1つ振り、出た目の数だけパラメーターがポイント減少します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>目の数</th> <th>減少するパラメーター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2</td> <td>事業行人種</td> </tr> <tr> <td>3～5</td> <td>消費者課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>労働債行 環境</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>組織統治</td> </tr> </tbody> </table>	目の数	減少するパラメーター	1～2	事業行人種	3～5	消費者課題	6	労働債行 環境	6	組織統治
目の数	減少するパラメーター											
1～2	事業行人種											
3～5	消費者課題											
6	労働債行 環境											
6	組織統治											
📖	ブックマス	開讀している冊子の学習をするところ。カードを読むことで、50万円もらえます。										

パラメーター表



マニュアル

あ行

い

お

か行

か

- ・ **イニシアチブ [Initiative]**
主に「主導権」「先導力」の意味で使われる。物事を率先して実施すること。
- ・ **イノベーション [Innovation]**
新しいものを生産する、あるいは既存のものを新しい方法で生産すること。
イノベーションは、技術革新の意味として、社会・企業発展に用いられることが多い。
- ・ **汚染者負担 [Polluter pays]**
公害防止のために必要な対策を取ったり、汚染物質を出している者が、汚した環境を元に戻すための費用を負担すべきという考え方。

- ・ **環境責任 [environmental responsibility]**
企業が製造を始めるにあたって、その原材料、製造装置、製造過程において、周囲に有害な影響を与えないこと、また製成品が有害物を含まないことを充分チェックし、その後の販売過程、消費過程、廃棄過程にまで一定の責任を負うことを指す。
- ・ **環境パフォーマンス [environmental performance]**
組織の環境側面についての、その組織のマネジメントの測定可能な結果。

4. 主な活動

① 全国環境ISO学生大会

活動内容

日時：8月27日（水）、28日（木）

場所：中部大学 22号館

テーマ：「過去から学び、未来を創る ～ESDで学び、創る環境とは～」

環境に携わる全国の学生を対象に、第8回全国環境ISO学生大会（主催：中部大学）を開催した。本大会は、約120名の“環境系学生”が全国から集まり、これまで各々が実践してきた環境活動を踏まえ、新たな活動の可能性を模索する類を見ないイベントであった。

成果

第8回全国環境ISO学生大会は、異なる思想・意見をもった歳の近い多くの学生と環境について情報共有する素晴らしい大会になった。普段の自分たちと違う環境で学習している人との話は大変興味深く、以降の活動に取り入れることができた。それだけでなく、各々の今後の課題も見つけ、さらに持続可能な未来へと近づいた実感ももてた。また、2年連続の開催校となったが、準備や進行など不慣れながらも1つの行事の運営をやり遂げたことは大きな糧となったと思う。



4. 主な活動

②ESDユネスコ世界会議併催イベント

活動内容

日時：11月8日－9日

場所：久屋大通公園

対象：一般

2014年はユネスコ100年目の節目として、名古屋で「ユネスコ世界会議」が開催された。その併催イベントとして「あいち・なごやESD交流イベント」に参加した。経済産業省や日本規格協会でいただいたコメントを元に改訂した社会的責任の標準化教材「せきにん!!～Take Responsibility～」の展示、実演を行った。

成果

ユネスコ世界会議ということで、イベント会場では外国人の姿も見られ、普段とは違った雰囲気イベントとなった。改訂直後だったため、ファシリテーターとしての力量に差があったことから、1日目は事業継続マネジメントシステム、2日目は社会的責任の教材の展示となった。イベントでは子供の来場が多く、子供に対してファシリテーターとしてどのようにサポートするか、どうしたら分かりやすく、楽しんでもらえるかを考えることができ、力量向上につなげることができた。



4. 主な活動

③UNESCO ESD EXCURSION

活動内容

日時：11月10日

場所：中部大学、犬山城、大曽根イオン

テーマ：交流

ユネスコESD会議に参加されていない方向けのツアーの引率を行った。基本的な企画・運営は私たちで行った。はじめに犬山城の観光、次に中部大学での昼食、茶道体験を行い、最後にイオンにて買い物を行った。基本的にはすべて英語でのコミュニケーションである。

成果

外国の方からは「楽しかった」という声を聞くことができ、成功を実感することができた。また企画・運営に携わることにより、力量を向上させることができた。

また、英語が流暢に話せない中でコミュニケーションをとることで、コミュニケーション力を向上させることができた。海外の文化に初めて触れることができた。



4. 主な活動

④ユネスコ半年前イベント

活動内容

日時：6月7日

場所：オアシス21

対象：一般

ユネスコ世界会議開催の半年前となり、開催されたイベント。中部大学ESDエコマネージャーチーム2014として初めてのイベントとなり、昨年度の事業継続マネジメントシステム「会社を守ろう!!」を出展した。また、8月26日-27日に中部大学で開催される「全国環境ISO学生大会」の広告活動を行った。

成果

イベントでは環境イベントや出展が初めてだというメンバーが多く、不安が混じりながらのイベントだった。また、昨年度の教材のファシリテーター育成も不十分だったことが多く、イベントを通して学ぶことが多くあったが、メンバーそれぞれが積極的に考えて行動することができていた。また、他団体や他大学と交流を行い、全国大会の告知を行うことができた。

イベントマネジメントシステムとしては、現地までの交通手段は公共交通機関を利用し、CO2の削減、騒音防止に努めた。



4. 主な活動

⑤ 愛知県学長懇話会

活動内容

日時：7月5日

場所：名古屋市立大学

テーマ：経済と持続可能性

平成26年11月に愛知・名古屋で開催される「ESDユネスコ世界会議」の成功に向けたプロジェクトで、約200名程の学生が集まった。学生が日頃の勉学・研究・実践の成果をESDの視点で捉え直してプレゼンテーションを行う。新チームになって以降初のプレゼンテーションの機会であり、準備期間や経験を含めてとても有意義な時間になった。

成果

チーム発表のテーマは昨年の「学生主体による事業継続マネジメントシステム」を用いた。私たち自身振り返りながら事業継続・環境・経済の接点を発表し、私たちが実践してきたESD活動が認められ、“ESD実践賞”をいただくことができた。発表後は質疑応答を含めたコメントをいただいた。事業継続マネジメントシステムの今後の可能性や、これからのプレゼンテーションの姿勢にも意見をいただき、現在までのプレゼンテーション技術の土台とすることができた。

4. 主な活動

⑥画像電子学会発表

活動内容

日時：6月30日

場所：早稲田大学

画像電子学会の年次大会において「[学生主体の事業継続マネジメントシステム—会社を守ろう](#)」を発表した。この学会には標準化教育の実践家が集まり、意見交換、成果発表した。客観的に他の標準化教育の実践発表をにより相互に向上することを目的としている。標準化教育部会において初めて学生として小寺章史、小川大紀がチームから参加し、プロの視点からの評価、アドバイスを受けることができた。

成果

40分の発表を通じて中部大学で実践している標準化教育と中部大学ESDIコマネーチームで実践している学生主体の標準化教育の取り組みと成果を発表した。発表を通じて、標準化教育実践者の視点から学生主体の標準化教育や事業継続マネジメントシステムの教材「会社を守ろう」に関する評価とアドバイスを受けることができた。また他組織の標準化教育を聞くことにより新たな視点を発見できた。さらに、他組織の標準化教育の実践内容と比較することで、中部大学ESDIコマネーチームが実践している学生主体の標準化教育がどの点が優れていて、どの点が不足しているのか、ということを理解できた。

学会発表(画像電子学会@早稲田大学)
2014.6.30



4. 主な活動

⑦ 日本規格協会実演

活動内容

日時：10月27日

場所：日本規格協会 MTビル

対象：標準化専門家

チームの3年生4名で日本規格協会、経済産業省に標準化専門家に対して開発教材のプレゼンテーションの実施を行った。その後、いただいた意見は改訂作業へ反映した。

成果

標準化や規格のプロの前での実演であり、未熟だった部分、わかりにくい部分の指摘を多くいただいた。プロの目線からでも難しい部分が多くあり、子供と大人が同じボードで行うことの難しさや、理解の程度などどうするかといった意見を頂き、ファシリテーターとしてのメンバーの力量の向上、子供版のルールの特案、ボードのゲーム性の追求などの改訂へと繋げることができた。



〈文責：地域部部長 市川萌虹〉

4. 主な活動

⑧環境デーなごや

活動

日時：9月13日

場所：久屋大通公園

対象：一般

名古屋市が主催となって開催されたイベント。環境に関心や環境問題に取り組む団体や企業が出展した。

成果

2014年度の教材が製作途中であり、展示するには不十分だったため、2013年度と2012年度の教材（事業継続マネジメントシステム、環境マネジメントシステム）の教材を用いて展示を行った。来場者は幼稚園児や親子連れなど幅広く、広くゲームを楽しんでいただくことができたと思う。本来はCSRの教材を展示するべきだったが、制作が追いつかない、メンバーの事故などのハプニングが多くあったが、今後同じ雇用に事故があったらどうするべきか、教材制作をどのように進めるとよいかなど活動自体の見直しに繋げることができた。また、先輩の作成した教材を改めて見ることでどうしたら楽しんでもらえるか、分かりやすくできるか考えることができた。



4. 主な活動

⑨エコプロダクツ2014

活動

日時：2月11日-14日

場所：東京ビッグサイト

対象：一般、学生

1年間の活動の集大成として国内最大級の環境イベントとして4年生のアドバイザーと3年生がメインとなって展示を行った。教材を通して楽しみながらCSRに興味関心を持ってもらうことを目的とし、子供から学生、社会人まで多くの方に体験していただくことができた。

成果

イベントでは幼稚園児や小学生の兄弟、親子、学生、社会人と幅広い方に体験していただくことができ、同じ教材を使ってどの年代も楽しめる教材にすることができたと実感できた。CSRは、難しい、どのように楽しいものにするか、子供が理解できるようにするにはどうすべきかを今まで考え活動してきたが、「面白かった」「難しいけど楽しかった」との声を多く頂き、教材を作ってよかったと思う。



4. 主な活動

⑩ 恵那研修

活動内容

日時：4月9日-10日

場所：中部大学恵那研修センター

対象：経営情報学部経営学科新入生

恵那研修は、大学生の心得や社会人としての礼儀やマナーを教育すること。

新入生が大学生活に慣れ、友人をつくるためのきっかけづくりとして中部大学が開学以来行っている大学行事である。チームの主力メンバーがピアサポーターとして経営学科の恵那研修の企画立案から運営までを担当した。

成果

準備から当日まで様々な問題が発生したが、先生方やメンバーの助けもあり重大な問題に発展することなく無事全日程を完遂することができた。

自分達も再度大学生としての心得を見つめ直すことができた。初めて大学行事の企画立案、運営等を行い、恵那研修で得たノウハウをその後のチーム活動に活かすことができた。



恵那研修

2014. 4. 9-10

2014年経営学科恵那研修ピアサポーター一覧

全体リーダー 全体副リーダー 青木さん担当 伊藤さん担当 小野さん担当 辻村さん担当



2年池田敬介 2年保清 暁 2年林 士貴 2年田中翔太 2年清水佳菜 3年榊手智哉
寺澤さん担当 西田さん担当 山口さん担当 森岡さん担当 山下さん担当



2年乾野寛之 2年田中駿吾 2年元永拓己 2年加藤初美 2年小林佳晴



4. 主な活動

⑪ 中部大学フェア

活動

日時：9月18日

場所：中部大学

対象：一般

活動

CSRの教材を初出展した。対象者は企業や大学関係者が多かったし、初めてメンバー以外の方に教材を体験していただくことができた。まだできたてで、教材のミスやファシリテーターの力量不足などの問題点が多く出たが、次の改訂、イベントに向けての問題点を見直すことができた。



5. 各部門の成果

① 委員長 植手智哉



主な活動

チーム全体のとりまとめ

学生主体の標準化人材・環境人材育成の推進

産学官民連携の推進

全国環境ISO学生大会の主催

初年次ピアサポーター

成果

多くの環境イベントを通じて、中部大学ESDエコマネーチームの活動を周知すると共に、産業界から連携等のお声かけをたくさんいただき、それに応えた。特にチームの主な活動の一つである標準化人材育成に関しては、標準を使う→作る→教えるという目標を立てて、ISO26000の教材開発やイベントでの展示を通して目標を達成できたと感じる。

個人としては、当たり前な環境活動を周知することの難しさを痛感した。チーム活動としては、委員長という立場から緊張があったが、多くの人に支えられ、また支えてもらうには自分がどうしたら良いのかということを勉強できた。

達成状況

チーム活動を通してチャレンジサイト・各環境イベント展示・全国環境ISO学生大会・日本規格協会との共同プロジェクト・エコプロダクツ展示等でとても良い成果を上げることができたと共に、大変参考になる感想やご意見をいただいた。メンバー全員の日々の努力がこのような結果に結びついた。人が人を支える、良きチームになった。

5. 各部門の成果



② 2年委員長 池田敬介

主な活動

委員長のサポート業務。またスカイプ等を利用し2年内への情報伝達を行い、チームの円滑な運営の補助を行うこと。

第8回全国環境ISO学生大会の運営を行う。

標準化教育部としてCSRを学習し、学べる教材の開発を行う。さらに、展示イベント時に体験者からいただいた意見を教材に反映し、教材の完成度を向上させる。

初年次ピアサポーターのリーダーとしての活動を行う。

成果

主に標準化教育部で活動していたが、遅延業務が発生したときはどの部の業務でもヘルプに入り、遅延を最小限に抑えることができた。

第7回の全国大会は2年生しか経験していなかったため、全国大会の進行やゲーム実演などメインで行った。

達成状況

委員長のサポート業務として、客観的に意見を言うことができ、スムーズなチーム運営のサポートを行うことができた。しかし、2年生内は確実にできていたが、他学年との連携が多少うまくいっていなかった場面もあったので、改善していかなければいけない。

CSR教材の開発が夏休みまでかかってしまい、毎日業務していた人がかなり無理していたので、決まった期間にきっちりやりきり、休養もとれるような方法でやらなければいけないと思った。

5. 各部門の成果

③ 委員長補佐 牧野善之



主な活動

委員長補佐

学生主体の標準化人材・環境人材育成の推進

産学官民連携の推進

全国環境ISO学生大会の主催

初年次ピアサポーター

成果

委員長補佐として委員長の仕事は当然のことながら心の面でもサポートをした。また委員長補佐として上下の繋がりすなわち先輩、後輩との連携をつなぐ役の難しさを感じた。同時に仕事の楽しさや仲間の優しさ大切さを大きく感じた。

一年目で途中加入ではあったものの、大役を任せてくれた先生、友人にここで感謝を申し上げたい。

活動報告

チーム活動を通してさまざまなイベントに参加してきたが私としての一番の報告になるのが、ISO全国学生大会である。ここで私は司会を担当した。ここでも諸先生方や先輩方に厚いご指導頂いた。ここで人間的にもスキルのにも大きく成長することができ、また貴重な経験となった。また、ISO260000の教材開発に携わり、学ぶ→作る→教えるというスタイルで子供から大人までいろいろな世代に教材を体験していただいた。この経験は次期チームの活動に活かしていこうと思っている。

5. 各部門の成果



④ 副委員長 大橋亮祐

主な活動

委員長の補佐を行いつつ、委員長と同様に学生主体の標準化人材・環境人材育成産学官民連携の推進を行った。

制作したゲームを「エコプロダクツ2014」など様々なイベントで展示したり、夏には全国環境ISO学生大会の主催を行い他大学の学生と意見交換など交流した。

成果

ESDの10年ということで例年より多くのイベントが開催され、より多くの方にISO26000を広めることができたと思う。経済産業省・日本規格協会にて教材のプレゼンテーションをし、意見をもらうことで産学官民連携の推進を行うことができただけでなく、標準化人材育成の推進にも活かすことができたと感じた。

個人的には、プレゼン能力・コミュニケーション能力を以前より高めることができたと感じている。こうした長期間のチーム活動を行うことが少なかったので、活動を通してお互いを支えあうことの重要性を実感した。

達成状況

活動を通じて、様々な方面から意見・アドバイスをいただき、最終的に想像以上の成果を上げることができたと思う。活動を始めたばかりの時は学年ごとの食い違いなど意思疎通を図るのが難しかったが、様々な活動・イベントを通じて最終的には学年の枠を超えた交流が多くなり、スムーズに物事を進められたと思う。CSRを広めることを目的として、活動をしていたが、逆にこちらが学ぶことも多くあった。

自分自身も知識を深めることができ、とても有意義な活動だったと感じた。

5. 各部門の成果

⑤ 2年副委員長 清水佳菜



主な活動

2年副委員長業務。イベント時にファシリテーターを行う。
全国大会の運営。初年次ピアサポーター。

成果

イベントに参加することでCSRについての知識が身に付くだけでなく、コミュニケーション能力も向上させることが出来た。
恵那研修、全国大会では全体の様子を見ながら行動し、指示を出すことが出来た。
またこれからの予定のことを考えながら準備できるようになった。

達成状況

1年時とは違いゲームの開発や運営に携わらせてもらい、全体を見るように心がけるようになり成長することが出来た。
チーム内での交流が前半は少なく他学年との連携が取りづらかったので来年度は改善したいと思う。

5. 各部門の成果



⑥ 1年副委員長 井上恭助

主な活動

ISO26000（社会的責任：CSR）を学べる教材の開発と、イベント時のファシリテーターの育成を行う。ファシリテーターの力量を高めるため、自分たちで教材の実践や教え合いを通して、展示の時にどうしたら分かりやすく、楽しく学んでもらえるかを検討し、イベントの出展で生かす。

成果

CSR教材の開発・改訂

イベントでのコメント集計・改訂の統括

日本規格協会でのプレゼン・教材実演

達成状況

今回の教材の社会的責任は内容が難しく、複雑なものだったため、子供から高齢者まで体験できるという点が課題だった。しかし、ファシリテーターの力量を向上させることで子供には簡略化、日常生活にある例を出すなどをし、教材を楽しんでもらうことを大切にしたい。結果として、イベントでは子供もお大人も無事ゴールができ、内容理解まではいかなくても、ISO26000や、社会的責任というものに触れていただくことができた。

標準化教育部の課題として、改訂や印刷といった業務が遅れることや、一人一人の仕事量に大きく差があった。これを踏まえ、メンバー間の意思疎通や、進捗の確認作業がこれからは大切にしなければならない。

今年度、無事に教材が完成し、各種イベント、エコプロダクツ2014への出展へ繋げることができたのもメンバーが休みを返上して作業を行ってくれたからだと思う。大変な1年だったがこのメンバーと活動でき、よかったと思う。

5. 各部門の成果



⑦ 標準化教育部 市川萌虹

主な活動

ISO26000（社会的責任：CSR）を学べる教材の開発と、イベント時のファシリテーターの育成を行う。ファシリテーターの力量を高めるため、自分たちで教材の実践や教え合いを通して、展示の時にどうしたら分かりやすく、楽しく学んでもらえるかを検討し、イベントの出展で生かす。

成果

CSR教材の開発・改訂

イベントでのコメント集計・改訂の統括

日本規格協会でのプレゼン・教材実演

達成状況

今回の教材の社会的責任は内容が難しく、複雑なものだったため、子供から高齢者まで体験できるという点が課題だった。しかし、ファシリテーターの力量を向上させることで子供には簡略化、日常生活にある例を出すなどをし、教材を楽しんでもらうことを大切にしました。結果として、イベントでは子供もお大人も無事ゴールができ、内容理解まではいかなくても、ISO26000や、社会的責任というものに触れていただくことができました。

標準化教育部の課題として、改訂や印刷といった業務が遅れることや、一人一人の仕事量に大きく差があった。これを踏まえ、メンバー間の意思疎通や、進捗の確認作業がこれからは大切にしなければならない。

今年度、無事に教材が完成し、各種イベント、エコプロダクツ2014への出展へ繋げることができたのもメンバーが休みを返上して作業を行ってくれたからだと思う。大変な1年だったがこのメンバーと活動でき、よかったと思う。

5. 各部門の成果

⑧ 標準化教育部 保浦徹



主な活動

ISO26000（社会的責任：CSR）を学べる標準化教材の開発
イベント時のファシリテーター育成
初年次ピアサポーター サブリーダー

成果

CSR教材「せきにん!!～Take Responsibility～」の作成及び、イベント時の子どもから大人までの幅広い年齢層でも対応できるファシリテーターの育成と力量向上を図った。

活動報告

今年でエコマネーチームとしての活動が2年目ということもあり、当初は教材開発に関わるのが初めての1年生や3年生を引っ張っていかねば、ばという思いから空回りをすることも多々あり、遅延や意思の疎通といった多くの問題も発生したが、そういった問題の中でチームとしての意識のまとまりが徐々にできていき、無事ゲームを完成することができた。

これからもチームは継続して活動を続けるので、この結果から学び、よりよい形で活動を行えるよう精進していきたいと思う。

5. 各部門の成果



⑨ 地域部 市川萌虹

主要な活動

地域部はチームメンバー全員が所属する部門。外部との交渉、書類作成、打ち合わせ、イベント会場までの運搬手配などイベントに関連する業務を行う。チームが様々なイベントに参加し、チームの活動の和を広げ、Facebookで報告も行う。

成果

ユネスコ世界会議関連イベント出展

エコプロダクツ2014出展

経済産業省&日本規格協会にてCSR教材のプレゼンテーション実施

ファシリテーター育成

達成状況

今年度はユネスコ世界会議が名古屋で開催された年で、国際色の強いイベントに多く参加することができた。また、イベントを経験していくうちに学年の枠を超えて交流でき、その後の改訂や、イベント準備などに繋げていくことができた。

地域部部長としては、イベント関連書類や返答を期限内に提出することができたが、事前打ち合わせは参加することができなかった。

また、イベント時の緊急事態作を行っておらず、メンバーが事故にあったとき、遅刻によるイベントへの影響を配慮できなかった。来年度は、緊急連絡網の作成やイベントでの災害時対策などを考える必要がある。

5. 各部門の成果

⑩ 広報部 太田僚介



主な活動

広報部長

ユネスコ世界会議併催イベントなどで中部大学ESDエコマネーチームとしての活動を広め、社会的責任を学んでもらう。イベントの際、ブースを周り中部大学を知ってもらおう活動をしている。

成果

多くの環境イベントのおかげで、中部大学の名を知ってもらう事ができ、チームの活動である社会的責任を学べる教材「せきにん!!～Take Responsibility～」を知ってもらう事ができた。中部大学のパンフレット、ESDレポートを多く配れた事によって家に帰って家族に周知する事やイベントで学んだ事を思い出す。といった事に成功した。

達成状況

環境イベント・全国環境ISO学生大会・経済産業省といった活動では多くの人に中部大学とどういった学校か、私達がどのような活動をしているか、社会的責任とはどのようなものかは知ってもらったと感じる。

だが、個人としてはイベント以外にも知ってもらう機会が出来たのではないかと感じる。このことを踏まえSNSを活用した周知の仕方などに力を入れていく事を大切にしていかななくてはならない。

5. 各部門の成果



⑪ IT部 元永巧巳

主な活動

IT部部长

2013年のゲームを技術面でサポートしてもらいつつ電子化をし、一般の方でも気軽に遊べるように作る。

第8回全国環境ISO学生大会の運営を行う。

初年次ピアサポーターとしての活動を行う。

成果

IT部として活動しておりゲーム開発に尽力した。また2013年のゲームをWeb上でのダウンロードができるようになり広く遊んでもらえるようになった。

第7回全国大会でのゲーム体験をしてもらう際皆の前でのファシリテーターをし、人のまとめる難しさを知る。

達成状況

チーム活動を通して様々なイベントに参加しいろいろな方々にゲームを体験してもらい改善点などがありそれを改善していかなければと思う。

ゲームの電子化については、技術面では他の方に頼り、ゲームの内容などは話し合いながら制作し、どうにか完成させることができた。

他の部との連携をほとんどとっていないため、手が空けば他の部の手伝いも積極的にしていると思う。

5. 各部門の成果

⑫ 国際部 田中萌子



主要な活動

国際部の主な業務はゲームの英訳。それをFacebook等を利用し、世界に発信する。

成果

ユネスコ世界会議関連イベント出展

犬山城ツアー案内

達成状況

今年度は、ユネスコ世界会議が名古屋で開催された年で、様々なイベントが国際色豊かであった。

海外の方に犬山城を案内したり、日本の文化である茶道を体験してもらったりと海外のかたと触れ合う機会が多かった。そこでチームを多くのかたに知ってもらうことができた。

3月の仙台で開催される国連防災世界会議での実演に向けて教材の英訳作業を行っている。国際部の部長としては、仕事をふるのが下手で締切ぎりぎりになってしまうことがあった。また国際部の個々のメンバーの英語能力がまだまだ乏しいので、来年度は育成していく必要がある。

5. 各部門の成果

⑬ 監査部 各務玄太郎



主な活動

ISO26000（社会的責任：CSR）を学べる標準化教材の開発
内部監査

成果

CSR教材「せきにん!!～Take Responsibility～」の作成及び、イベント時の子どもから大人までの幅広い年齢層でも対応できると力量向上を図った。

内部監査について学べた。

活動報告

初めての活動ばかりあり戸惑うことが多かったが、チームメンバーの協力があり、遅延や意思の疎通といった多くの問題も発生したが、そういった問題の中でチームとしての意識のまとまりが徐々にできていき、無事ゲームを完成することができた。活動を通して、自分の欠点の見直しやコミュニケーション能力が付いた。この結果から学び、よりよい形で活動を行えるよう精進していきたい。

内部監査については11月に実施したが、まとめの業務と次年度の反映の業務はこれから行う予定である。

5. 各部門の成果

⑭ デザイン部 加藤初美



主な活動

CSR教材のデザイン業務。主にゲームボード・カードのデザインを行う。

第8回全国環境ISO学生大会に使用するポスターやボードの作成を行う。

成果

ゼミのみんなの意見やアドバイスをもらって協力し、いい作品が作れたという喜びを得られた。

たくさんの意見をもらうことによって、悩み、考える力が身についた。

達成状況

みんなに協力してもらったおかげで、みんなが使いやすい作品ができた。一人で考え作業するには大変な仕事だと思った。細かい作業も多くいろいろな発想が求められる仕事なので嫌になることも多かったが、みんなに手伝ってもらうことで作るのが楽しくなってきた。

小さい子供から大人までみんなが興味もってくれて、楽しみながらできるゲームのボードを作れてよかったと思う。

6. 内部監査

活動内容

日時 11月3日

場所 中部大学22号館1階2211教室

対象 中部大学ESDエコマネーチームメンバー

2014年12月3日に22号館2211教室にて内部監査を実施した。形式はメンバー各々が他部署のメンバーを監査する形式である。下記にて多く上がった意見・感想等を記載する。

良い点

- ・責任感を持って仕事ができている。
- ・コミュニケーションがうまくとれている。
- ・Facebookへの書き込みがしっかりできている。

悪い点

- ・チームの目目実が理解できていない。
- ・チームのサステナビリティ方針を理解していない。
- ・順守評価チェックシートが出来ていない。
- ・スカイプの利用が少ない。
- ・緊急事態の連絡先、対応等を把握していない
- ・チームのシステムが理解できていない。
- ・議事録が書けていない。

評価

責任感、コミュニケーション等の社会人基礎知識の向上が見られる。しかし、チーム事情、チームシステム、目目実等のチームの土台を理解していないメンバーが多い点については、重大な不適合である。早急な対策、措置が必要である。チームのことを理解しつつ活動を行う必要がある。

また、Facebookの書き込みができているという良い点がある中、スカイプの利用が少ないことや議事録が書けていないという悪い点があることからメンバー各々の活動報告がいい加減になってしまっていると判断できる。報連相がいい加減になるとチーム内の連携が困難にな

7. 目的目標達成状況

II サステナビリティを考慮した環境研究、活動、イベント推進

No.	項目	対象部門	目的 (2014年度)	目標 (2014年度)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
II-1	エネルギー 使用量削減	全体共通 事項	エネルギー 使用量を見 直し、削減す る。	限られたエネ ルギーの大 切さを理解 し、使用量削 減のために 努める。	講義室・事 務室・研究 室の空調機 器の適切な 温度設定の 呼びかけ。	全員	通年	現場確 認する。	副委員 長	1回/年	クールビ ズの実 施	○
					照明、空調 機器、電子 機器の消し 忘れの防 止。	全員	通年		副委員 長	1回/年	帰宅時 確認	○
					各エレベ ーターの最小 限使用。	全員	通年	アン ケート調 査を確 認する。	副委員 長	1回/年	階段の利 用	○
					夏季の軽 装、冬季の 厚着。	全員	夏季	副委員 長	1回/年	クールビ ズの実 施	○	
					省エネ ルギー機器の 使用。	全員	通年	現場確 認する。	副委員 長	1回/年	呼びか け	○
II-2	用紙類使 用量削減 及び再利 用	全体共通 事項	通年の活動 を通し用紙 類の使用量 を削減する。	中部大学 ESDエコマ ネーチームの 参加者全員 に浸透させる	電子媒体に よる用紙使 用量削減	全員	通年	現場確 認する。	副委員 長	1回/年	ゼミサー バーの利 用	○
					会議資料等 の作成に当 たり印刷枚 数は最小限 の枚数とし、適切な サイズでの 印刷を行う。	全員	通年		副委員 長	1回/年	P.P.Tの 利用	○
					資料作成の 場合両面の 印刷を行う。	全員	通年	現物確 認する。	副委員 長	1回/年	同上	○
					使わなく なった紙の 裏面を使用 する。	全員	通年	副委員 長	1回/年	同上	○	
II-3	水使用量 削減	全体共通 事項	通年の活動 を通し水資 源の使用量 を削減する。	中部大学 ESDエコマ ネーチームの 参加者全員 に浸透させる	節水の徹 底。	全員	通年	副委員 長	1回/年	節水実 施	○	
II-4	廃棄物抑 制	全体共通 事項	廃棄物発生 の抑制と廃 棄物分別を 行う。	廃棄物発生 の抑制と廃 棄物分別に 努める。	ごみの発生 を抑制して、 同時に分別 も徹底する。	全員	通年	現場確 認する。	副委員 長	1回/年	分別の 呼びか け	○

7. 目的目標達成状況

No.	項目	対象部門	目的 (2014年度)	目標 (2014年度)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度	
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度			
Ⅲ-3	事業継続マネジメントシステム(ISO22301)	書記部	学生により事業継続マネジメントシステムの構築。	チームの活動に沿い適切にシステムを構築する。	サステナビリティ方針に従いシステムを構築する。	書記部	通年	書類確認する。	書記部部長	1回/年		△	
		監査部	方針及び目目実に沿って活動できているのか監査する。	チェックシートを作成し回答を行う。	内部監査を行い継続的に改善する。	監査部	通年	チェックシートを確認する。	監査部部長	1回/年	チェックシートを用いて確認		△
Ⅲ-4	イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム(ISO20121)	地域部	持続可能なイベントマネジメントシステムの推進。	チーム活動において持続可能なイベントマネジメントシステムを推進する。	チームのメンバーに持続可能なイベントマネジメントシステムの知識を持たせる。	地域部	通年	活動記録を確認する。	地域部部長	1回/年	できていない。	x	
					イベント中に災害が起きた場合の避難場所連絡等災害対策をする。	地域部	通年		地域部部長	1回/年	全学生対象の防災訓練に参加(予定)	○	
					各活動及びイベントでの移動方法を公共交通機関、カーシェアリングを行う。	地域部	通年		地域部部長	1回/年	イベントは公共交通機関を利用した。	○	
		書記部	学生によりイベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの構築、運用、継続的改善を行う。	チームの活動に沿い適切にシステムを構築し改善する。	サステナビリティ方針に従いシステムを構築する。	書記部	通年	書類確認する。	書記部部長	1回/年		△	
		監査部	方針及び目目実に沿って活動できているのか監査する。	チェックシートを作成し回答を行う。	内部監査を行い継続的に改善する。	監査部	通年	チェックシートを確認する。	監査部部長	1回/年	チェックシートを用いて確認		△

7. 目的目標達成状況

IV チーム活動に関連する法的・その他の要求事項の順守

No.	項目	対象部門	目的 (2014年度)	目標 (2014年度)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
Ⅲ-5sa	マネジメント レビュー	監査部	継続的改善 を行う。	今年度活動 を来年に反映 する。	マネジメント レビューの 作成を行う。	監査部	通年	マネジメント レビューで 確認する。	監査部部长	1回/年	報告書で良 い点、悪い 点を評価	△
Ⅲ-6	事前準備	書記部	マネジメント システムを構 築する事前に 構築可能な 知識を得る。	より高いレベ ルのマネジメ ントシステム 構築。	マネジメント システムに ついての学 習、要求事 項の学習。	書記部	通年	活動記録を 確認する。	書記部部长	1回/年		△
		監査部	監査を行う事 前に監査可 能な能力を身 に着ける。	円滑な監査	監査のため の資料準 備、トレーニ ング。	監査部	通年		監査部部长	1回/年	監査説明会 を行う	△
IV-1	法的・その 他の要求事 項遵守	全体共通事 項	活動を行うに あたり法的・ その他の要 求事項を遵 守する。	チームの活 動に関する法 的・その他 の要求事項 の理解及び遵 守。	関連する法 的・その他 の要求事項 の学習。	全員	通年	アンケート 調査で確認 する。	書記部部长	1回/年		○

7. 目的目標達成状況

V 環境マネジメント分野の標準化教材普及と事業継続マネジメントシステムの標準化教材の開発

No.	項目	対象部門	目的 (2014年度)	目標 (2014年度)	運用手順			監視測定手順			実施内容	達成度
					項目	担当者	日程	項目	責任者	測定頻度		
V-1	事業継続マネジメント分野の標準化教材の普及	全体共通事項	事業継続マネジメント部門の標準化教材の普及	事業継続マネジメント分野の普及に努める。	2013年開発の標準化教材の普及活動。	全員	通年	活動記録を確認する。	標準化教育部長	1回/年	環境イベントでBCMの教材展示。	○
V-2	社会的責任分野の標準化教材の開発及び普及	全体共通事項	社会的責任分野の標準化教材の開発及び普及	社会的責任分野の普及に努める。	2014年開発予定の標準化教材の開発。	標準化教育部	通年	現物確認する。	標準化教育部長	1回/年	大幅な遅延が発生し、完成が遅れた。夏休みに集中して行うことができたが、その後の連携がうまくとれて	△
					各プロジェクト、イベントと連携し普及に努める。	標準化教育部	通年	活動記録を確認する。	標準化教育部長	1回/年	イベントとの連携ができていない。	×
		デザイン部	標準化教材のデザイン	ゲームの趣旨がわかりやすいデザインにする。	2014年開発予定標準化教材の英語訳版を作成し、国際化	国際部	通年	現物確認する。	国際部部长	1回/年	○	
					2014年開発予定の標準化教材のデザイン。	デザイン部	通年		デザイン部部长	1回/年	○	

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

中部大学経営情報学部 伊藤佳世研究室内

中部大学ESDエコマネーチーム

電話 0568-51-1111(4976)

電子メール chubu_esd_team@yahoo.co.jp